

令和3年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第1回対人援助スキルアップ部会を開催しました

○8月25日(水)上越市福祉交流プラザにて、第1回対人援助スキルアップ部会を開催しました。参加者は、部会メンバー8名と在宅医療推進センターコーディネーター2名、事務局3名でした。

○委員の交代があり、今年度から瀬下介護支援専門員(悠久の里)が委員に就任しました。新部長に小山委員(上越地域医療センター病院)、新副部長に清水委員(ふもと地域包括支援センター)が選出されました。

○今回の部会では、昨年度の活動の振り返りと、今年度の活動についての検討を行いました。

【令和2年度の振り返り】

令和2年度は、事例検討などを通して、部会メンバーの日頃の困り感や、支援をする中で大切にしたい支援者の考え方や関わり方等を共有しました。

★部会メンバーの振り返りから…

- ・対象者の思いを尊重することが大切であると学び、支援者としての立場や、自分の関わりを振り返るよい機会となった。
- ・つい専門性を押し付けてしまい、寄り添うことが難しいことがある。
- ・上から目線にならないように対応したい。
- ・自分の知りたいことを聞くだけでは、信頼関係を築くことは難しい。

★また、前回事例検討したケースのその後についても情報提供があり、部会内で出た意見を事例提供者にフィードバックし、対応を工夫したところ、対象者との関係が改善し、前向きに今後の目標について

話し合うことができるようになった、と報告がありました。このような実践の積み重ねが一人ひとりの生活満足度向上につながることをうれしく思いました。

対人援助スキルアップ部会(R2年度)

私たち専門職は…

- ▶日々の支援で「飽りがちなくせ」「苦手意識」がある
- ▶信頼関係の構築が大切だとわかっていても、そこに時間をかけるより「専門職として〇〇を提案する」ことを重視しがち
- ▶本人に「こだわり」があるために、本人と支援者の考えが一致しないと「困難だ」と思ってしまう

「部会での学び」

- ★人間として尊重する、本人の考えや行動を全面的に受け止める
- ★「自分」の気持ちを「支援者」が理解してくれると思ってもらえることができるか
- ★本人の苦しみを知っているか
- ★本人の「支え」を知っているか
- ★提案に引っ張られ過ぎず「謙虚な問いかけ」を行い、信頼関係を構築していく

「本人:イライラする 復職もしなくていい」

「担当者:なんでイライラするの? お金様がなくてもいいの?」

「パーソナルセンターケア受給者トムキッドワードによる認知症をもつ人の心理的ニーズ」

- 愛着のあるものや匂いがある?
- 社会との接点はある?
- 自分の息遣いでやりたいことは?
- 愛着、結びつき
- 共にあること
- 自分と自分であること
- 「つらさ(やすらさ)」
- 「たずねること」
- 自身の不安がある中、安心してできる環境は?
- 今の自分に自信を持つことができるには?

→ 部会外の専門職とも共有できるとよい

【令和3年度の活動について】

①研修会の企画について

- ・部会内で共有した内容について、外部へ広げていきたい。
- ・令和2年度第3回部会の事例検討の動画を教材とした研修会を実施したい。
- ・初回の研修会の対象候補は、他の部会のメンバー、理学療法士会、地域包括支援センター等。
- ・動画を教材とした研修会の経験を重ねながら、様々な分野の支援者研修に広げていきたい。
- ・初回の研修会を令和3年11月頃実施予定。Zoomによるオンラインで実施予定。

②今年度の部会について

- ・第2回部会では、事例検討を通して、『パーソン・センタード・アプローチ』等の理解を深めていく予定です。
- ・第3回部会では、研修会を実施して今後の振り返りを行う予定です。